

出所：禅スタディ ソサイエティ<office@daibosatsu.org>

主題：7月2日大菩薩禅堂における声明の転写

日付：2011年 7月 5日 午前11時37分11秒 東夏時間

宛先：

返答：office@daibosatsu.org

以下の声明は、2011年7月2日、大菩薩禅堂金剛寺において約45名のDBZの僧伽メンバーと、ニューヨーク禅堂正法寺、及び、シラキュースの禅センターの参加者によって構成された。

栄道老師：

こんにちは。この、どちらかと言えば、むしろ大切な会議に大菩薩禅堂へお集りいただいて、ありがとうございます。明後日は7月4日です。1776年、この国は独立し、その200年後この禅堂が開かれました。昨年2010年7月4日、愛法と私は45年服務の後、理事会を引退しました。

もちろん、皆知っている事なのですが、この禅堂とニューヨーク正法寺は何千人もの援助によって建立されたものです。しかし、当初より今日に至るまで引き続き一身を捧げて来たのは愛法とこの私二人だけです。仏道への情熱を - 言ってみれば燃焼し尽くして来た - と言えます。

私達は今過渡期にあります。このような推移は他の場所では珍しい事ではありません。僧院では前住持が新しい住持に、会社では前社長が新社長にと移って行きます。私達の場合、この禅スタディ ソサイエティでは未だ正式の変遷を行なった事はありません。

昔、無活動の禅スタディ ソサイエティをD.T. 鈴木博士が日本へ去った後、私が譲り受けました。ドクター鈴木から私への変遷期、彼の秘書は快く文書類、法人捺印を私に譲りました。今回、過去一年、- 特に過去六ヶ月、私達は苦しみました。僧伽は苦しみ、理事会は苦しみ、私も苦しみました。今ここで、私達が何らかの肯定的で、矯正的で、平和で調和のとれた解決策を計らねば、禅スタディ ソサイエティ、大菩薩禅堂、ニューヨーク禅堂は難儀な事になるでしょう。

どうか苦しんだのは貴方だけだとは思わないで欲しい。私達は皆何らかの状態で苦しんだのです。私の場合、多くの眠れぬ夜が続きやがて带状疱疹にかかりました。酷い痛みでこれは今も続いています。痛みの最中私は、この苦痛に如何にして対処したら良いか考えました - 体の痛みだけでなく、僧伽の苦しみ？ 私はあれこれ考え、答えに到達しました - そしてこれは皆も同意するに違いないと思うのですが - 大切なのは仏法であり、これだけは持続させなければならないと思いました。

その頃私は約60通の手紙、電話、ファックス、又個人面接があつて、“どうか教を続けて欲しい、貴方が懐かしい、私達を見捨てないで”と言うのです。多分これは事実でしょう、しかし、もし私が死んだとしたら、このような電話、ファックス、手紙等はありません。それならば、と私は考えました。これは臨濟禅で言う執着でしかない。

貴方も独参を知っているでしょう。特異な修行で、私達はこれを行い、苦しみ、成長します。接心の時期には日に3回の独参を行ないます。多く参ずればするほど、仏道と共に一種の深い感情的進歩が見られます。これも執着と呼ぶのかもしれませんが。そこで私は思ったのですが - 一寸待て、私が、もう1年か2年又はもう少し長く“続けて欲しい”と言う彼らの要求を受け入れたとしても、問題は解決しない。多分悪化すると思う。私は深慮し、自分に向かって問うてみました、自分は弟子に執着しているのであろうか、否かと。答えは、そう、執着です。貴方がたの一部は私と共に坐禅や独参を20年、30年と続けて来ました。当然両者間で執着なるものが生まれます。これではこの過渡期、問題解決にはならないと私は思った。私は引退しなければならない。私は犠牲になり、彼らも犠牲にならなければならない。時には物事を犠牲にしなければならない。

何日も考えた後、今、私はこのような態度をとることに決めました：今日より私は貴方がた皆、心華老師の弟子となるよう大いに激励し - 力を込めて推薦 - します。彼女の指導の下で修行する事が私達の僧伽をかってのような僧伽に再び築き上げる唯一の道だと思います。勿論私の教えのスタイルと彼女のスタイルは違い、性格も違い、他の多くの事が違います。しかし仏法は - 白隠からやがて玄峰老師へ、そして宋淵老師へ、次いで私、次いで彼女へ - これは違うものではありません。この時点では、彼女唯一人、この大事業の責任を受け次ぐ事が出来るのです。私は彼女を信頼しており、私達は、禅スタディ ソサイエティ理事会の会長、住持は彼女のみであると激励し、彼女の成長を助ける義務があると思います。

私は引退しましたが、一部の人びとは“例外”を考えているかもしれません。否、私は正式に独参も提唱も行なわないと決めました。一部の人びとは心華老師に慣れていないため、不安を感じるかもしれない。私にもこの経験があります。私が初めて雲水として平林寺へ行った時、老師は白水敬山老師だった。三年後、龍沢寺へ移り私は宋淵老師の弟子になった。この二人の教えのスタイルは非常に違っておりしばらくの間私は“同調”出来なかった。しかし宋淵老師と私とは宿命的一致があり、後に思った事ですがこの頃の困惑は反って良かったと思っています。日本では老齡の師がもし引退することになると - 健康の理由か又は他の理由で - 修行半ばの僧の間で問題が生じます。一部は去り、一部は残り、一部は困惑します...しかしやがて殆どの場合、半数は残り半数は他所へ去ります。

このような終末を見たくないのですが、もし私が完全に引退し、貴方がたが心華老師を支持しないならば、DBZはお仕舞です。これは誰も望みません。50人、60人の弟子達があのような情熱的な手紙を私に寄越した事を思うと済まなく思います。しかしここで私が挫けて彼らを受け入れても解決にはなりません。私の想い、感情は貴方がたが私を愛そうと憎もうと常に貴方がたと共にあります。これが僧伽の和合を再生させる唯一の道だと信じます。一部の人びとにとってこのような宣言を聞く事はかなり困難な事かも知れません。貴方は“なんと意地の悪い”と言うかも知れない。しかし、これが唯一の方法なのです。唯一の方法なのです。

私がここへ来ると何時も、心華老師や在住の人びとは明るく迎えてくれます。しかしもう接心は行ないませんし独参も致しません - 何処にしても - 時々訪れますが。これが私の人生なのです！私は人生を仏道に捧げてきました。私はここも、ニューヨーク禅堂正法寺も平和で永続して欲しいと望みます。私ははっきりと私の今後に対する態度を述べました。それ以上については貴方次第です。

心華老師：

私も又皆に当所にお越頂いた事を感謝いたします。栄道老師も指摘されたように、困難な時が続いており貴方がた皆も深く影響を受けて来ました。大きな苦痛がそれぞれの胸の中に存在しています。様々な立場において私達はベストを尽くして参りましたが、時には間違いも犯しました。私達は皆人間として、驚くべき過ちを犯す機会に遭遇し、それでも猶、佛になります。

私達は常に困難を通して、苦痛を通して成長します。このようにして成長して行くのです。誰かがこの私を栄道老師の代わりに選んだとは信じられない事ですが、このような事態が訪れました。変遷！変遷と言う事は難しい。それでも私達は受け入れなければならない。共に努力しそれでも猶、性格の不一致があるならば勿論私は納得します。しかし私が貴方がたに伝えたい事は、何時も私は貴方の為にここに居ると言う事です。仏道のために私はここに居るのです。大菩薩禅堂のために私はここに居るのです。禅スタディ ソサイエティのために私はここに居るのです。私は私の全てを捧げる為にここに居るのです。ためらうものは何一つありません。これが気に入らない人は去って下さい。しかし、老師が言われた事だけは思い返して下さい。

貴方がたそれぞれには、私達皆への贈り物、また何世代もの未来への贈り物であるこの美しい場所に対する責任があります。 正法寺についても同様です。 私達は皆寛大な精神にならなければなりません。私達は皆この過渡期の事業に進んで参加しなければなりません。 是等を皆進んで抱きとめるのです。たとえ同意出来ない相手であっても、抱き合うのです。 そのようにして私達は成長して行きます。栄道老師の偉大な仏法の教えに報いる唯一の方法は、この道を共に歩み、感謝し、深い誓願で満たす事です。

註：栄道老師の弟子はすべて、心華老師の下で修行を続ける意志である事を表明する正式な書状をしたため、提出するよう勧告が前もってあったが、これは心華老師と師弟関係を開始し又独参に参加するための**必須事項ではない**。

禅スタディ ソサイエティ | 223 ビーチャーレイク通り | リビングストン マナー | NY | 12758